

能勢分校生と福島の高校生とのオンライン交流会

GS受講生3年生4名(昨年ドイツを訪問)が、ドイツ・再生可能エネルギーについて、ドイツを訪問した福島県の高校生とオンライン交流会を行いました。環境省参事官の川又孝太郎さんによるミニ講義「コロナ危機の今考えるエネルギーの未来」の後、分校生がプレゼンテーションを行い、続けてディスカッションしました。双方活発に意見交換が行われ、あっという間の90分間でした。

その取組みの様子が、5月31日(日)に関西テレビ「FNN Live News it !」で放映されました。テレビで分校生の活動が紹介されたのはこれが初めてではなく、能勢町と連携し再生可能エネルギーの可能性について探る活動が、たびたび紹介されてきました。

今回は、環境省の川又さんがコロナで学びの機会が減っている生徒に声を掛け企画したもので、昨年(令和元年)ドイツでシュタットベルケの視察を行った3年生4名が参加しました。テレビでは『過疎化の能勢町で活性化に取り組む高校生が環境省とオンライン討論』というタイトルで放送されました。生徒は、ドイツ視察後も、能勢町で放置されている間伐材を利用してのバイオマス発電の可能性について研究を進めていることを報告。川又さんから、「林業の担い手不足が深刻な問題」という新たな課題も示され、多くの意見を交わすことができました。

オンラインでも有意義な学びの時間を持つことができました。

